

令和5年度 小金井第三小学校 第3回学校運営協議会 記録

<日時>令和5年9月9日(土) 午前11時20分から午後12時20分まで
<会場>4階家庭科室

出席者: 12名中 10名参加(委員の過半数以上の出席により本会成立)

1 委員交代のお知らせ

P T A会長の交代に伴い、大林委員が辞任し嶋内委員が就任

2 開会の言葉および校長挨拶

○本日は土曜学校公開だった。2学期の授業づくりのポイントは、「対話」、「I C T」、「考える子ども」の3本柱にしている。これまでの教師と児童の対一のやり取りから、児童同士の関わりを大事にした授業に変えていこうと取り組んでいる。参観で感じたことをお聞かせ願いたい。

3 報告及び協議

(1) 公開授業

- 対話を授業に取り入れることと、相手を肯定する気持ちを皆にもたせることを大切にしている様子が見て取れた。また、前の学年では授業中に動いてしまっていた子も、一つ学年が進んだことにより、落ち着いて授業を受けられるようになっていた。長い目で見守ることの大切さを感じた。
- 全体の流れに乗れない子に対して、その子の状態に応じて言葉かけの仕方を工夫している場面を見た。状況の見極めの難しさを感じた。
- 以前と比べて、教師が話をする授業から、グループ活動などで話し合いながら皆が考える活動が多くなったと感じた。また、先生にも児童にもI C Tの活用が浸透していた。
- 授業をする先生の表情や声のトーンが子供たちの表情に反映されていると感じた。また、昔から当たり前にあるものについて、何のためにあるのかと改めて考えてみるのが大事。対話が中心になっているが、その必要性を保護者や地域に発信することも大事だと思う。
- 教師の授業のやり方によって児童の関心の持ち方も様々だった、SDGsの授業を学校でやっていることにも驚いた。
- 対話の場面を多く見た。ディベートで相手を打ち負かすというものではなく、相手の意見を聞くことを目的とし、どちらが勝ちというものではないものが良い。
- コロナ禍と比べると、学校全体がリラックスして元気な感じがした。タブレットのある授業だと、会話がなくなりシーンとなってしまっていた。「対話」とは対極の雰囲気を感じた。

(2) 6年清里林間学校

○感染症対策として、Aチーム(8月8日~10日)とBチーム(8月17日~19日)に分かれて実施した。どちらも天気の心配をしながらも、間伐体験や探究活動などほぼ予定どおり実施することができた。Bチームのキャンプファイヤーの後には、スターリンク衛星を見ることができた。来年度の実施方法については子供を中心に据えて検討していく。

(3) 夏季ワークショップの報告

○「考える子ども」をテーマに具体的な姿をみんなで話し合うことを通して考える会になった。1月学校公開の後、皆様が参加しやすい時間帯に、冬季ワークショップの実施を検討したい。

(4) 自己評価・学校関係者評価中間まとめ

○目標をおおむね達成することができている。委員の皆様のご意見をいただいた上でまとめていく。

(5) 異学年交流の報告

○2学年ずつペアとなって活動を進めている。相手のことを考えて時間を共有することがねらい。

(6) 学校保健委員会報告

○児童の健康状態において、国や都の平均とかけ離れているところは見受けられなかった。

3 事務連絡

○次回以降の学校運営協議会の予定の確認。

4 閉会の言葉(副校長)